

令和8年10月8日（木）

山本一太群馬県知事 定例記者会見

9/28県議会での質疑＜一般質問＞



自由民主党

狩野 浩志 議員



自由民主党

丹羽 あゆみ 議員



リベラル群馬

加賀谷 富士子 議員



自由民主党

高井 俊一郎 議員

中学生男子ハンドボールGHR

🏆 群馬県勢初!

全国大会 春夏連覇!



群馬県クレー射撃協会

青森国スポ クレー射撃競技



群馬県勢初!

総合優勝!



群馬県立県民健康科学大学の知事特別授業



小泉進次郎防衛大臣訪問



養蚕農家視察



群馬県改良品種
「なつこ」



本日の主な項目

- **前橋国際芸術祭2026**
- **ご当地キャラクターニバル2026の実績**
- **ぐんまちゃんアイドルフェスティバル**

前橋国際芸術祭2026

前橋 Maebashi
国際 Biennale
芸術祭 2026

第一回
2026.9.19—12.20
1st

前橋のまちなかで。
芸術で。建築で。音楽で。食で。
世界とローカル、
日常と非日常がまざり合う。

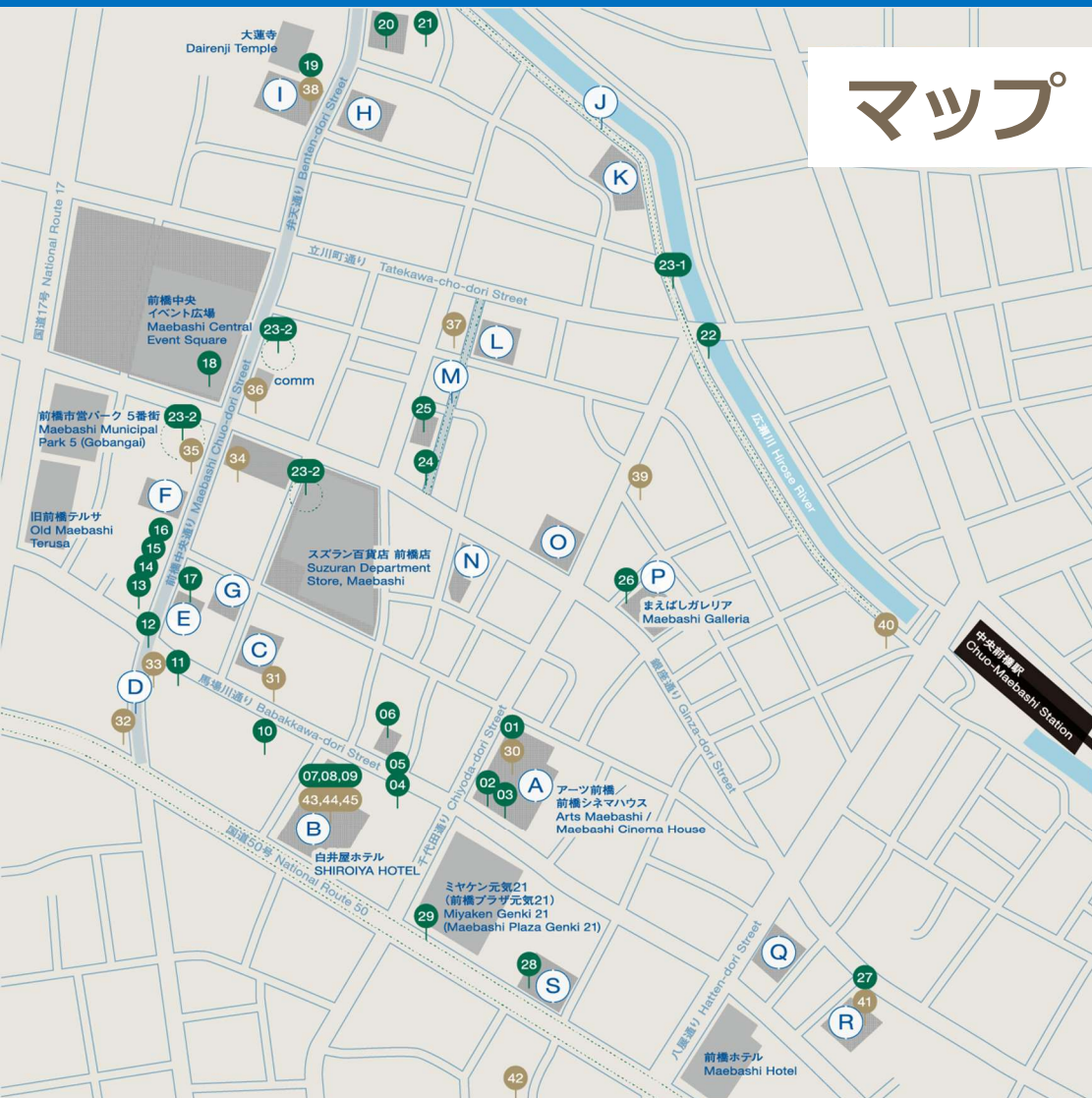
主催 前橋国際芸術祭2026実行委員会

実行委員長 ジンズHD 田中仁 会長



前橋国際芸術祭2026

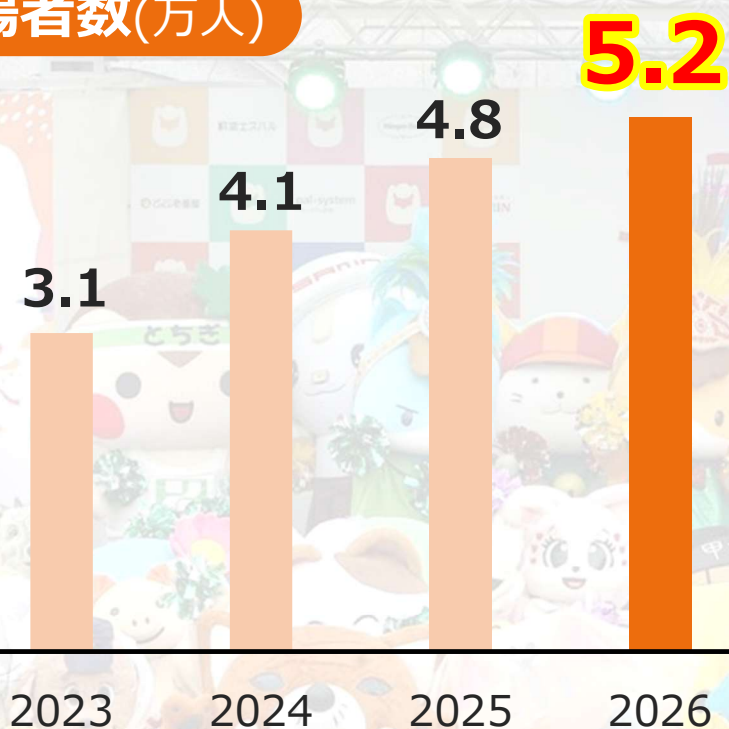
マップ



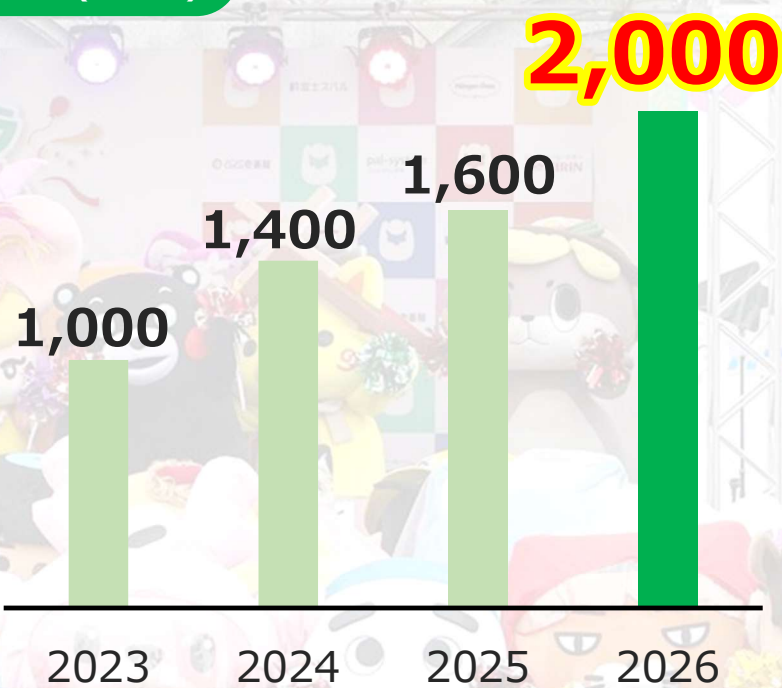
詳細はこちら

ご当地キャラクターニバルinぐんま2026の実績

来場者数(万人)



売上(万円)



来場者数・売上ともに**過去最高!** 過去最多**145キャラ!**

ぐんまちゃんアイドルフェスティバル



メインステージ
ニコニコ生放送で
ライブ配信！

女性エリア
ファミリーエリア新設！

日時

10/12 (月・祝) 10時～

会場

群馬県庁

県民広場 群馬会館 など

内容

37組のアイドルが集結！
ライブ&コンテストなどを開催

詳細は
こちら



特設HP

公式X



県政重要課題に関する県民アンケート

目的

県民の意見を県政運営に速やかに反映

第1回 調査

時期 …… R 8.7.31～8.12(WEB)

回答数 …… 県民 3,000人

項目 …… ●ごみ減量
●蚕糸振興
●#7119・#8000
(救急安心センター) (子ども医療電話相談)

調査結果について
詳細はこちら→

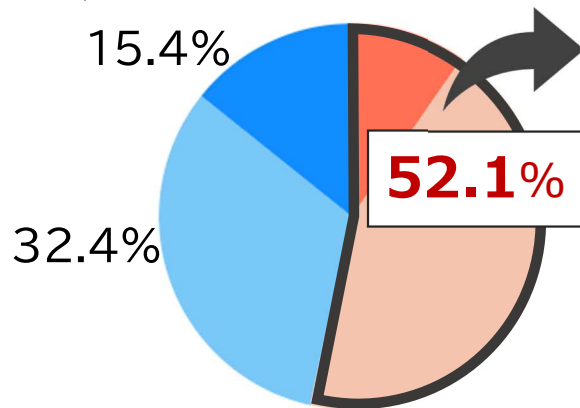


アンケート結果【ごみ減量】

- ・ごみ減量に取り組んでいる人が半数以上
- ・ごみ減量施策のニーズは
「回収しやすさ」「リユースしやすさ」「学ぶ機会の充実」

ごみの減量に取り組んでいるか

n=3,000



- 十分取り組んでいる
- ある程度取り組んでいる
- あまり取り組んでいない
- ほとんど取り組んでいない

年代	割合
80代以上	80.6%
70代	73.3%
60代	64.8%
50代	54.8%
40代	42.6%
30代	33.6%
20代	42.4%
10代	42.9%

自治体が行う取組で特に効果があると思うもの

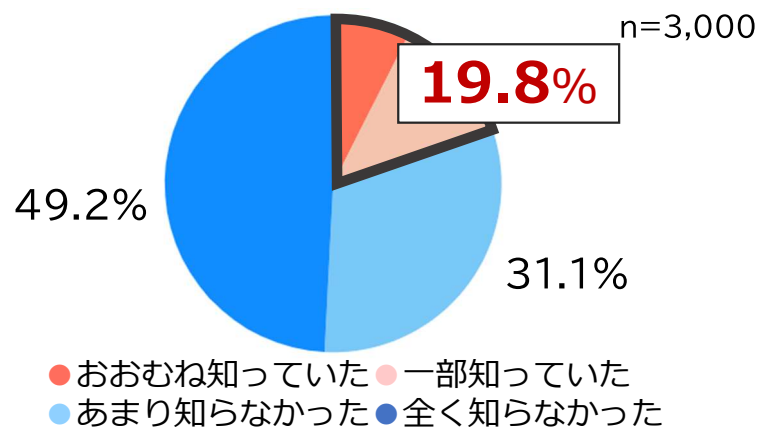
n=3,000

資源ごみ回収場所増加	60.0%
リユースできる 仕組みの充実	56.7%
学ぶ機会の充実	40.0%
リサイクル品目増加	36.8%
分別の情報提供強化	36.5%

アンケート結果【蚕糸振興】

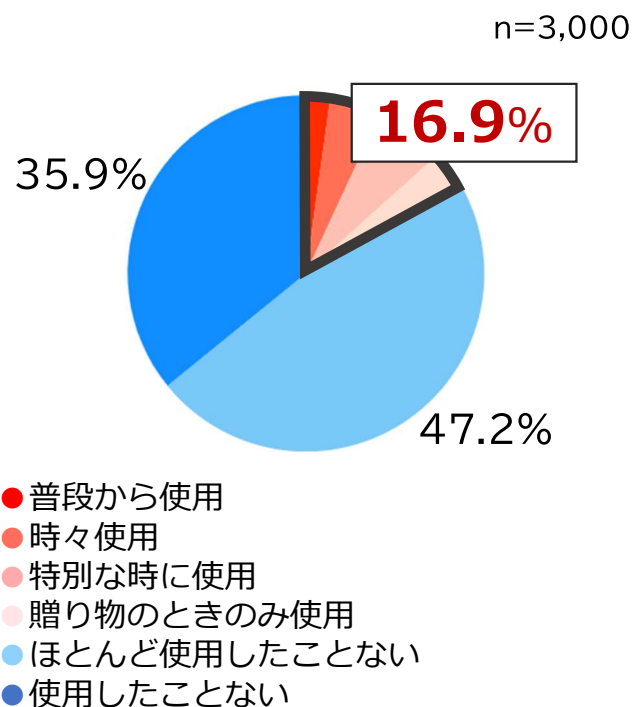
- ・ 県内蚕糸業の現状の認知度・シルク製品使用者はともに2割弱
- ・ シルク製品の魅力「高級感」「肌ざわりが良い」が上位

県内蚕糸業の現状認識

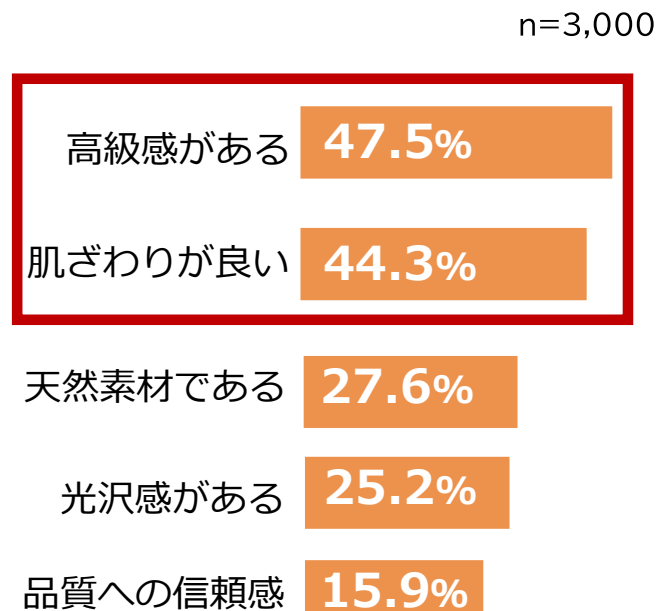


	ピーク時	令和7年
養蚕農家	84,470	50
繭生産量(t)	27,443	15
生糸生産(t)	3,160	6

シルク製品の使用頻度



シルク製品の魅力



令和8年10月8日（木）

山本一太群馬県知事 定例記者会見



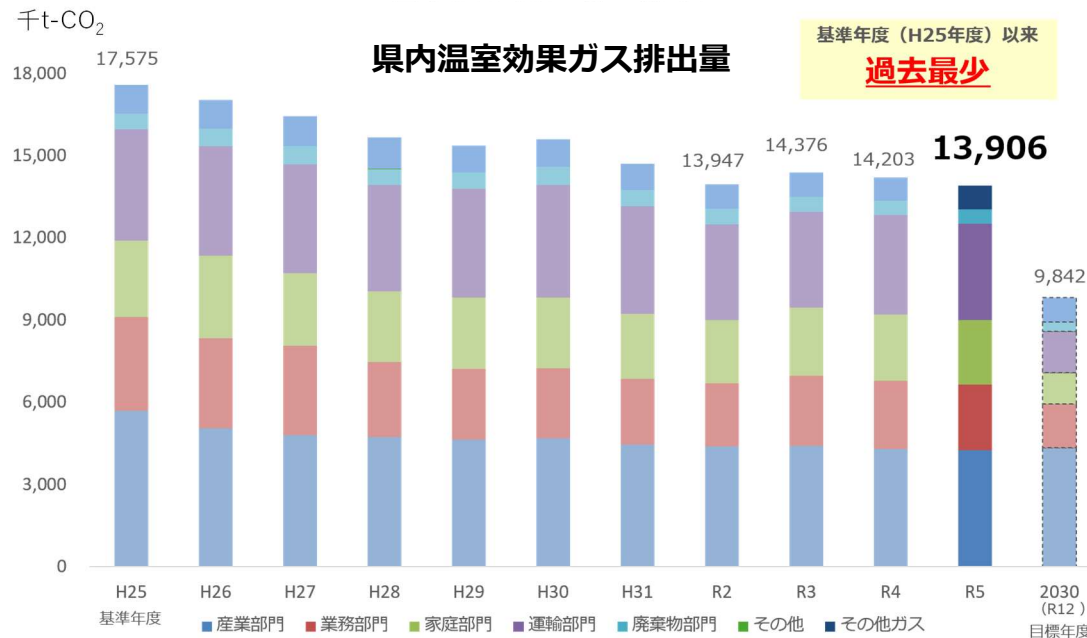
質疑応答中



Newさんのひとこと

群馬県における自然環境の改善

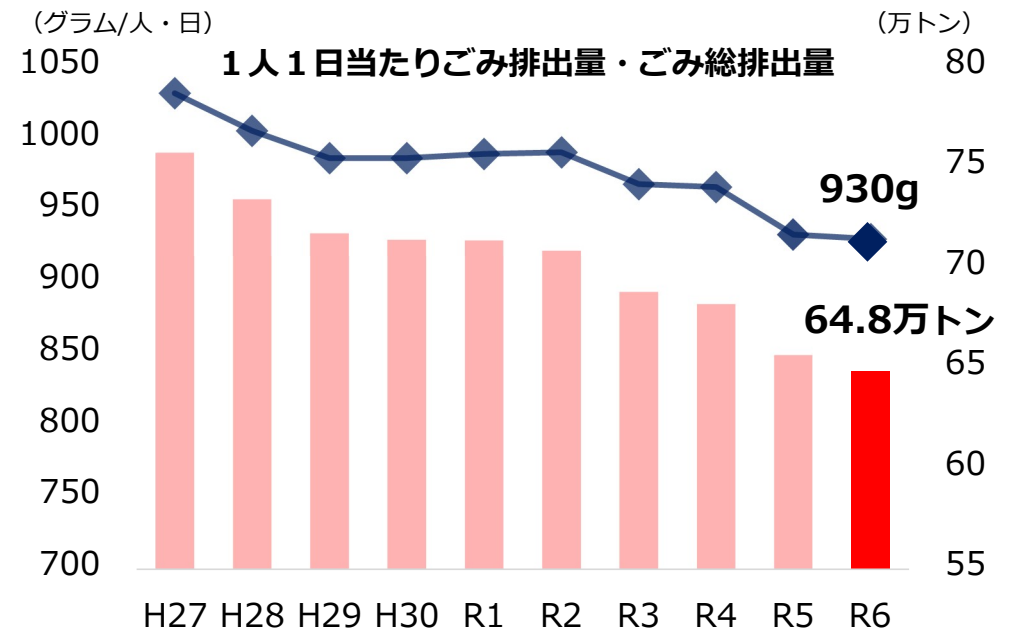
温室効果ガス排出量の削減



**R5年度県内温室効果ガス排出量
13,906千t-CO₂（基準年以降過去最少）**

◆ 目標達成に向け、更なる省エネや節電等が必要

ごみ排出量の削減



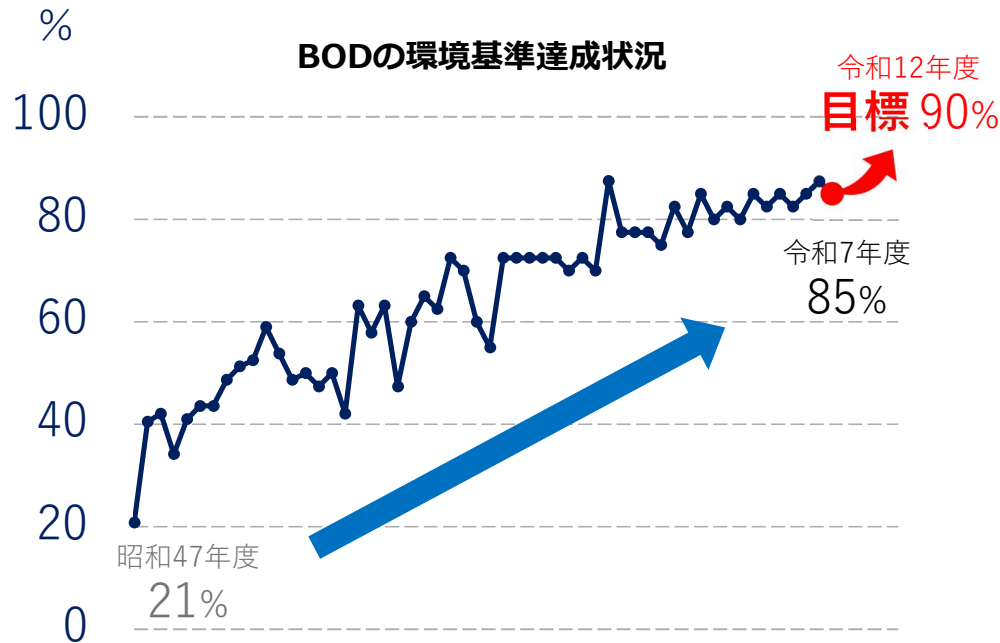
**R6年度 ごみ排出量
930g（1人1日当たり）、64.8万トン（総排出量）**

- ◆ ごみ排出量は長期的に減少傾向
- ◆ 市町村の取組、県民・事業者の協力により改善
- ◆ 前橋市では「Maebashi 3Gs」99g減量目標を設定
- ◆ 目標達成に向け、更なる減量・資源化の推進が必要

群馬県における自然環境の改善

河川水質の改善

BOD：水の汚れの程度を示す指標であり、
河川の用途に応じて満たすべき基準が異なる



環境基準達成率85%（令和7年度）

◆目標達成に向けて引き続き水質保全対策を推進

自然共生サイトの認定

企業や地域などの取組により、生物多様性の保全・回復・創出が図られている場所を国が認定する制度

ネイチャーポジティブ

自然を回復軌道に乗せるため、
生物多様性の損失を止め、反転させる
生物多様性国家戦略2023-2030における2050年
ビジョン「自然と共生する社会」の達成に向けた
2030年ミッションとして掲げられています。

30 by 30

2030年までに陸と海の30%以上を
保全する世界目標
国立公園等の保護地域に加えて、OECM
（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）
の設定が重要となっています。

目標：30.0%
現状：20.4%

県内10箇所が「自然共生サイト」に認定

県内の認定事例

認定済：10箇所
申請支援中：10箇所



◆自然共生サイトの認定を通じ、保全区域を着実に拡大